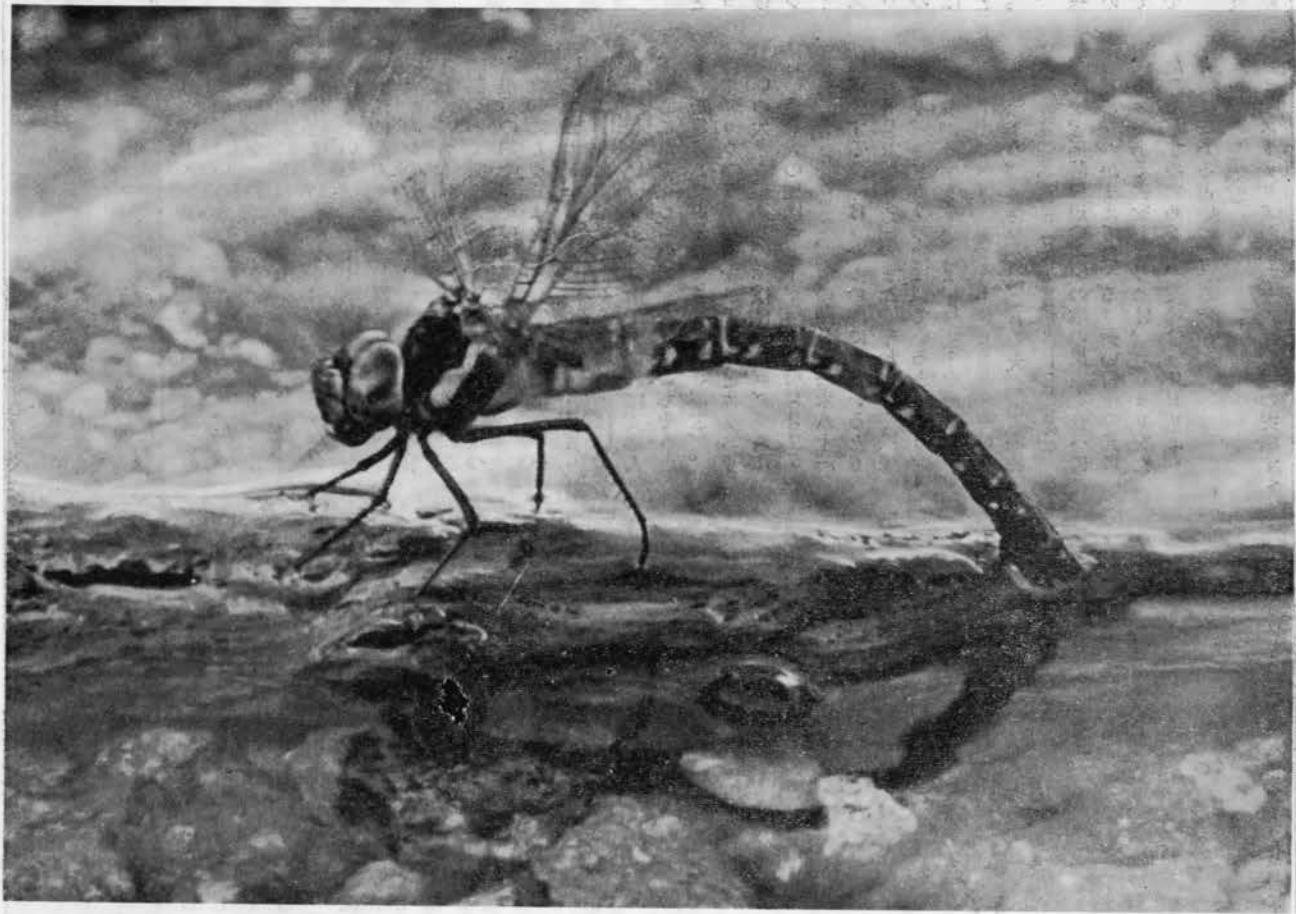


山と博物館

第12巻 第9号 1967年9月25日 大町山岳博物館



遭難におもう

ことしの夏山シーズンも、ようやく終りをついた。北アルプスの玄関口信濃大町駅は連日、県内外の登山者で賑わいを見せていた。最近は山の奥深く自動車が入り、山頂近くまでケーブルが動き、三千メートルのアルプスの山々もいさゝか低くなつた感がしないでもない。しかし、この夏も数多くの遭難事故が伝えられた。私は、悲しい山の報せを聞くたびに、「山ではないぞえ岳だぞえ」今は亡き鹿島槍ヶ岳冷池小屋の柏原長寿翁のありし日の言葉を思い出す。

私が初めて北アルプスに登ったのは、七月初めの鹿島槍だった。雨にずぶぬれになつて登った赤岩尾根だったが、十四歳の少年の心を山の何かがとらえたらしい。それ以来、毎年のように冷池小屋に爺をたずねたものだつた。どうやら北アルプスの山々を、ひとり歩きできるようになつても、爺は逢うたびに「山ではないぞえ岳だぞえ！」と、私にその言葉を繰り返した。耳にタコが出来る程、聞いた言葉を、しみじみ肌で感じるようになつたのは、ずっと後のことだった。

そして、その言葉は、そのまま私の山に対する信条となつている。

アカデミックな登山、計画性と科学性ある登山、レジャー的登山など、その可否はとあれ、山に登る人に欠けてならないのは、山に対する謙虚な人間性ではないだろうか。「山へ挑戦」「山との闘い」「山を征服」そんな言葉を、よく耳にする。そんな言葉を軽々しくいう前に、大自然のきびしさの中で、如何に一人の人間が小さく弱いものであるかを謙虚に考えるべきではないだろうか。

インスタント流行の昨今、山男もインスタント的なものが多くなつた。山を知るには長い歳月がかかる。ひとつひとつの山行を謙虚に考えりみて、山を知る。そんな山男であつて欲しい。「山ではないぞえ岳だぞえ！」亡き爺の言葉を、もう一度かみしめて欲しいものだ。

コウモリを食べる

宮 尾 猛 雄

すべて清い鳥は食べることができる。

ただし、次のものは食べてはならない。

すなわち、はげわし、ひげわし、みさい

、黒とび、はやぶさ、とびの類。

各種のからすの類。

だちよ、夜たか、かもめ、たかの類

ふくろう、みみづく、むらさきばん、

ペリカン、はげたか、う、こうのとり、

さぎの類。

やつがしら、こうもり。

また、すべて羽があつて這うものは汚れ

たものである。

それを食べてはならない。

(旧約聖書、申命記)

モーゼの教えでは、コウモリを不淨の鳥と

して食べることを禁じている。日本でも、コ

ウモリを食料とした形跡は殆んどない。近畿

地方の佐目洞から、七種の貝、イノシシ、シ

カ、カモシカ、アナグマ、クマ、タヌキ、カイ

ヅカオオカミ、ワカヤマムササビ、ハタネズ

ミ、モグラ、カワネズミ、とともに、ヤマコウ

モリが出土している。これは縄文時代晩期の

遺跡とみられているが、このヤマコウモリは

、はたして食料の残滓かどうか疑問であると

いう(酒説仲男・日本縄文石器時代食料総説)。

ところが、東洋人やアフリカ人の間では、

かなり広くコウモリが日常の食品として賞味

されてきた。この地域には大型で、果食性の

オオコウモリ類が分布することによるので

ある。

オオコウモリ類は一科(三亜科)、三十九

属からなる大翼手亞目を構成し、旧世界の熱

帶からオーストラリアまで、広い分布域をも

っている。いろんな種類の果実を食べ、時に

は果樹園を一夜で全滅させることがある。日

中は樹木にぶら下つて休んでいるが、その群

の個体数はきわめて多く、この群をキャンブ

と呼んでいる。北部オーストラリアでは、三万

二千匹に及ぶキャンブが観察されている。

セイロンの一部でも、オオコウモリは何千

となく集合して棲息し、樹を被いかくすほど

に群がって餌をたべており、一たび飛び立つ

と黒雲の如く、その羽音はものすごい。

地方によっては食品として価値があり、一

匹三十五セントで売っている(Wroughton: 1915)。また、市場でコウモリのいはいつ

また大きなカゴが目につく。これは支那人

が持ちこんでくるもので、大変なごそうと

して尊重されている(Dodsworth, 1914)。

オオコウモリは翼をひろげるときカラスぐ

らいの大きさがあり、体重は一キログラムに

近い。最大の種はニューギニアの *Pteropus neohibernicus* で、翼の開長は一メートル八十三

種に達する。味はウサギの肉に似ているとも

(Tennent: 1861)、また、やわらかく風味

があり、ニワトリの肉に似ているともいう。

ボルネオのマライ土人は *bat pie* を好むし、

ジャワやフィリピンでもオオコウモリの肉

を賞味する。サモアではこれを天国の動物

(animal of the heavens=manu lagu)

と呼び、部落周辺のパンの木の果実を食べにくるのをつかまえて食べる。長い竹竿の先にトゲのある板をしばりつけ、コウモリをたきおとすのであるが、彼等はニワトリよりも美味であるといっている。

(Allen: 1939)

オーストラリア西部の土人は、果の実熟す

頃にやつてくるオオコウモリを大歓迎し、トロ火での下で火をもして煙せめにし、竹竿などでたき殺す。このコウモリの肉は、海岸地方の土人にとって大変な恩恵で、乏しい食料の補いとなり、殆んど魚ばかりの食事に変化をもたらす。Mrs. Lance Rawsonは白人の口に合うようなコウモリの調理法方を考案し、その著書には次のように述べている。『オオコウモリはとてもすぐれた食品です。触るのもいやらしく、いやなにおいがしますが、翼をとり、皮をはいでしまえば、ブタ肉と区別がつかないでしょう。肉は切ってタマネギを

炒物の時期でないと味がおちます。オオコウモリは、果物のない時期には、ノイチゴや木の葉などを食べる所以で、香りが悪いからです』(Allenによる)

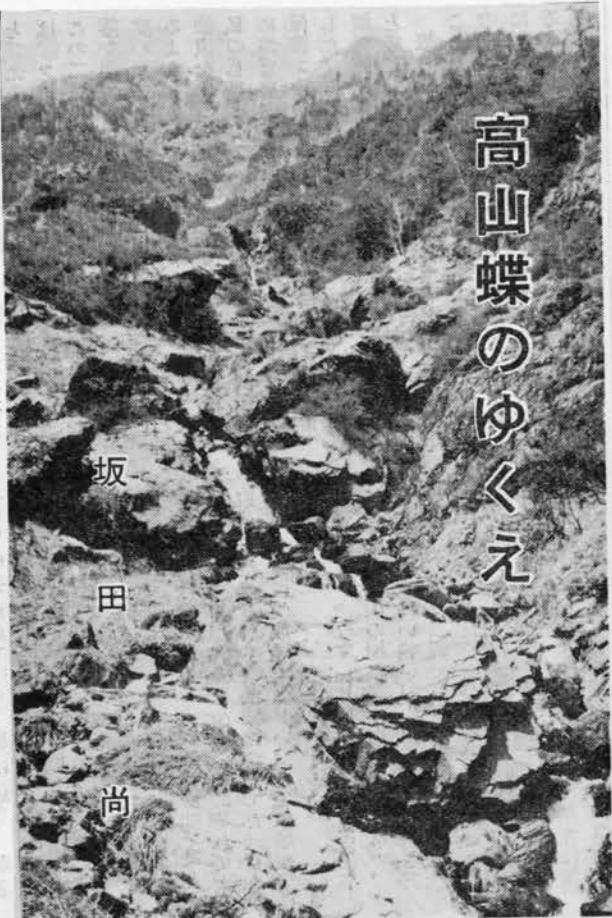
アフリカにもオオコウモリはいるが、これあまり食べない。小型の食虫性の種は美味でなく、また大人の食料としてはあまりに小さすぎるのだが、子供は草屋根の下にひそむヒナコウモリ類をさがしまわり、みつけるとあぶって、一口に食べてしまう。コウモリさんは子供の大きな楽しみの一つだという。小型の果食性のコウモリ (Epomophorus Roseatus) は時として土人のナベに入れられ、たしない食料の補いにされる。西アフリカでは、コウモリの住む洞窟は土人の財産として大切される(Murray: 1869)。

支那の山西地方に、ニワトリほどの大きさのコウモリがあり、支那人はこれをとても好むという記録があるが、山西はオオコウモリの分布域から北にはすれており、このコウモリは多分キクガシラコウモリの一種だったのだろう。

小型のコウモリは日本各地に多くの種類が住んでいるが、オオコウモリは口之水良部島、宝島、沖縄本島、南大東島、八重山諸島の石垣島、西表島、小浜島、鳩間島、与那国島などのみに分布が限られている。これらの島々でオオコウモリを食べる習慣があつたかどうか筆者はまだ知らない。

所かわれば品かわる、で、食物の種類も地方によつてずい分ちがう。その地方の自然環境と結びついた習慣や宗教と食物の種類との間に深い関係がある筈で、そこに秘められた歴史的背景をえぐり出すことによつて、思ひもかけない事実が現れてくるかもしれない

高山蝶のゆくえ



自然と、そこに生きる小さな昆虫の世界にも、最近抗しきれぬ時の流れがあることを感じた。

今から十数年前までの上高地は蝶類にとって、食草は豊かであり、また安らかな生息地であったことはたしかである。

此の附近の高山蝶も近年急激に発展し、ある観光開発の犠牲となり、年毎に減少の一途をたどりつつある。

そして現在に至り根絶したものもある程度である。

私が上高地の高山蝶に少なからぬ興味を持つたのは、三十年前からであった。

そのころ中学生だった私は、此の地をよく訪れたもので、ゼリスの宝庫であった、島々谷から、上高地へ入るのには苦しい里程の山道であったが、自然界に舞交う美しい蝶の数々を採集しながらの登山は、また楽しみのつきない一日であった。

その当時小梨平から徳沢附近で、六月中旬

頃になると、高山蝶の珍品である、クモマツマキチヨウをしばしば見かけることができたものである。

七月下旬から八月上旬にかけて、小梨平のキャンプ指定地一帯に数多くのミヤマシロチヨウとウスバシロチヨウがミヤマズミの樹間に舞い、またベニヒカゲやカララシジミなどが、シシウドの花に群がり翅を休めていたものである。

また此の頃明神橋附近と徳沢の河原や陽あたりのよい山道までにも、オオイチモンジの見事な群生が見られたものであり、この附近の河原で発生していた数多くのヤリガタケシジミを、そのころの私はそれが高山蝶であることを知らなかつた位であった。

現在登山人口の増加と観光施設の発展で、かって高山蝶の宝庫であった上高地周辺は、自然環境が汚染破壊されて数多くの高山蝶もまたいつのまにか、その姿を消してしまったのは残念なことと思う。

まず小梨平では梓川ぞいに自生していたミヤマハタザオ、それにカラマツ林の周辺に群生していた、シロハノヘビノボラズなど、クモマツマキチヨウやミヤマシロチヨウの食草が、キャンプ指定地の拡張とバンガロー施設の敷地内にあったため、そのほとんどが根絶してしまったのは惜しいことである。

一昨年の七月三十日に上高地バスター・ミナル附近で、ミヤマシロチヨウ一頭を確認したがこれが私の知る最後の記録である。

そのあと、ベニヒカゲもその食草ミヤマカシスゲの根絶で、クモマツマキチヨウとともに、此のあたりで採集された記録はない。

ウスバシロチヨウも四年前に(メス)が一頭採集されたのみで、そのあと発生をみないのは食草のエンゴサがやはり根絶しているためである。

そのほかの珍らしい例では、低地性のヒメギフチヨウの少数が、五月下旬ごろ六百沢の針葉樹林帶に発生していたことであるが、食草のウスバサインシンが六百沢の氾濫で減少したせいか、近年その姿を見ることができなくなつた。

現在上高地に残された高山蝶のうちでオオイチモンジ、ヤリガタケシジミもまた減少の一途をたどっているのは淋しい限りである。

なぜならば最近これら高山蝶の発生期をねらい多くの採集者が入山して、成虫はもとより食草についた卵から幼虫までも持ち去るからである。

また河川の氾濫で、タイツリオウギやオオイチモンジの食葉であるドロノキまでが水に流されて、この附近に少なくなったのも原因の一つである。

然し悲觀すべきことばかりではない。

一昨年の六月明神岳最南峰登頂の際に、クモマツマキチヨウの生棲地を上高地から、最も近い明神岳ワサビ沢に発見したことである

登り数キロの沢ぞい、ミヤマハタザオの自然環境が汚染破壊されて数多くの高山蝶もまたいつのまにか、その姿を消してしまったのは残念なことと思う。

現在五頭飼育しているカモシカの冬のエサ作りがこのほど終了した。

保護したのは須藤文男氏。館ではさっそく今までいたメスザルと一緒に飼育することにした。

カモシカ冬のエサ作り

現在五頭飼育しているカモシカの冬のエサ作りがこのほど終了した。

コナラ、クリ、クズ、クワなどの葉を乾そ

した。

その後ワサビ沢を再度訪れて、卵から幼虫

三令の生育期まで見守り、ひそかに保護を続

けてきた。【カット写真ワサビ沢】

昨年六月にN.H.K.の「自然のアルバム」、高山蝶撮影のため、その一行を私は此の場所へ案内した。

そのときのクモマツマキチヨウ撮影は成功であった、同行の田渕行男氏も、上高地の一部に貴重な存在であるクモマツマキチヨウの健在なさまを見て満足な様子であった。

同様に昨年の七月明神岳東南尾根のカールに自生している、タイツリオオギとイワオウスバシロチヨウも四年前に(メス)が一頭採集されたのみで、そのあと発生をみないのは食草のエンゴサがやはり根絶しているためである。

そのほかの珍らしい例では、低地性のヒメギフチヨウの少数が、五月下旬ごろ六百沢の針葉樹林帶に発生していたことであるが、食草のウスバサインシンが六百沢の氾濫で減少したせいか、近年その姿を見ることができなくなつた。

現在同地附近で八月中旬、下旬に數十頭のベニヒカゲの群生するのを見たがその数の多いこと、自然のまゝの姿は、かって高山蝶の金盛期であった昔しを思い、よろこばしい限りであった。

また同地附近で八月中旬、下旬に數十頭のベニヒカゲの群生するのを見たがその数の多いこと、自然のまゝの姿は、かって高山蝶の金盛期であった昔しを思い、よろこばしい限りであった。

島々谷から槍沢まで、昆虫学会員仲間に知られたクモマツマキチヨウの生棲地も、今は減少して見かけるもないが、こうした秘境にまだ残存しているこれらの高山蝶と、その自然環境を保護することこそ、滅びゆく高山蝶のためにも必要なことであると痛感するものである。【明科フイシュンクラン】

ニホンザル入園

九月十五日高潮入不動沢でニホンザル(オス)一頭が保護された。

保護したのは須藤文男氏。館ではさっそく今までいたメスザルと一緒に飼育することに

した。

信州植物寸景

横内 斎

(その八)

オリヒヨウタンボク *Lonicera Vidalii* F.

ranchet et Savatierすいかづら科灌木。

葉は橢円形か広卵形で質はうすい、上面は緑色、下面は淡緑色で中肋に粗毛をつける、上面は脚上に細毛がある、花は淡黄色で五月に開く、本州の越後、信濃と中国地方の山地に育つ、南朝鮮に分布する。これも大陸との共通種である。本県では北アルプス山麓の数ヶ所とここ菅平と東信の山地に見られる。

さてこの菅平の神川上流の湿原(谷地)であるが、私が断片的に記したのをまとめてみると、エゾオオサンザン(クロミサンザン)と同(か)カラフトイバラ、シバタカエデ、ハナヒヨウタンボク、クロビイタヤ、シキンカラマツ、オニヒヨウタンボクなど稀重な存在だと言える。菅平で注目すべき他の植物といえば、ツキスキソウとグンバイヅルであるが、この二種を除けば他の七種は、ここに一大群落を作っているわけである。この重要な高高地を、もしも人工によって破壊されると、菅平で注目すべき他の植物といえども、菅平で注目すべき他の植物といえども、菅平で注目すべき他の植物といえども、菅平で注目すべき他の植物といえども、

あつたが、植林をしたために、あわれなものになっていた、もし前者は測溝を整え、後者は植えた木が成長するならば、どういう結果

になるだろう、真田町の中学校の帽章などは

Sumura きく科 山中の河原やガレ地に生え

る剛直で壮大な多年草で、高さは五〇~一〇

センチにも達する、葉は基部に集っている、白

い毛がある頭花は甚だ大きいくらい一〇月頃に

下向きに開く、総茎片は無毛で紫色を呈する

、本州の関東から中部にかけて分布する、お

そらくはフォッサマグナ地帯の要素であろう

、本県では大地溝帯に添うて産し、下水内や

下高井には産しない、一種の白花のものがあり

シロバナフジアザミ form. abiflorum Kita

tamura といふ、本県では北安小谷村小谷

温泉付近に産する。

ヒゴノミズタデ *Persicaria amphibia* S. F. Gray var. amurensis Hara たで科

池や沼またはその周辺に生える多年草で、

地下茎は地中を横立して枝を出す、水上に延

い枝打ぐらにして、幹そのものは残して欲

しきつた、まずこういう注意すべき場所を

変改するには、その道の人に意見を聞くべきであるという事である。筆が横にそれで大

変恐縮した、これも自然愛護からたた言葉と

してすなおに受取つて欲しい、さて本題に戻

る。

トガクシショウマ *Ranzania japonica* It.

めぎ科深山の樹陰地に生える多年草で、

地下茎は横にはい強い根を出す、茎は高さ三

〇センチ内外、葉は二個で茎の上部に対生する、

花后にのびる、長い柄がある、三出複葉で、

小葉はゆがんだ円形、ふぞろいに浅く裂け

る、両面無毛、花は淡紫色で六月に咲く、散

花状に三と五個で下向きに開く、花弁は六

片、穂果は円形、わが国の特産で、戸隠山の

樹陰下に採られたので、この名がある、トガ

クシソウともいう、信濃では戸隠山に産した

が、今はほとんどない、白馬岳の中腹には健

在である、近頃上水内郡鬼無里村の国有林中

に多産するのを見出された、私も一回この地

を見ているが、荒される恐れがあるので产地

は明かにできない、花時は清楚な感の草であ

る。

アシザミ *Cirsium purpuratum* Mat.

Sumura きく科 山中の河原やガレ地に生え

る剛直で壮大な多年草で、高さは五〇~一〇

センチにも達する、葉は基部に集っている、白

い毛がある頭花は甚だ大きいくらい一〇月頃に

下向きに開く、総茎片は無毛で紫色を呈する

、本州の関東から中部にかけて分布する、お

そらくはフォッサマグナ地帯の要素であろう

、本県では大地溝帯に添うて産し、下水内や

下高井には産しない、一種の白花のものがあり

シロバナフジアザミ form. abiflorum Kita

tamura といふ、本県では北安小谷村小谷

温泉付近に産する。

ヒゴノミズタデ *Persicaria amphibia* S. F. Gray var. amurensis Hara たで科

池や沼またはその周辺に生える多年草で、

地下茎は地中を横立して枝を出す、水上に延

い枝打ぐらにして、幹そのものは残して欲

しきつた、まずこういう注意すべき場所を

変改するには、その道の人に意見を聞くべきであるという事である。筆が横にそれで大

変恐縮した、これも自然愛護からたた言葉と

してすなおに受取つて欲しい、さて本題に戻

る。

カモシカの名前決まる

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉

名前をつけていただいた方々には命名され

たカモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(1)、高瀬川東葛温泉付近で保護されたもの 葛子

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(2)、上高地で保護されたもの 上子

今年に入り保護され飼育されていたカモシ

カの名前を募集いたしておりましたが、多く

の方々からお寄せいただいたうちから、次の

よう名前が決まりました。

なお、安曇郡沢渡で保護されたメスは9月

1日肺炎のため死亡いたしました。

カモシカの写真をはったアルバムが贈られ

ます。

(3)、沢渡で保護されたもの 沢吉